

I 主題について

1 研究の背景

(1) 今日の教育の課題

今の子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また、急速に変化し、今後、ますます予測が困難な時代となっていくと考えられる。

中央教育審議会答申においては、このような予測困難社会の変化の中で生きていく子どもたちに育成する「生きる力」を「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養の三つの柱として整理している。

一方で、国内外の学力検査の結果から、国語科の課題として、読解力に課題があること、複数の情報を関連付けて理解を求めたりすることなどに課題があると示されており、基礎的・基本的な知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成が大きな課題となっている。そこで、指導のねらいを明確にした言語活動の充実を踏まえ、更なる授業改善を図っていく必要がある。

新学習指導要領では、国語科において育成を目指す資質・能力を「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」としている。「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、「子どもが学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」であるとされている。

このように、各教科で言語に関する能力を育成する際に、その中核となるのは国語科であり、「言葉による見方・考え方」を働かせることで国語科の資質・能力を身に付けさせていくことが強く求められていると考える。

(2) 本校の教育目標及び継続研究から

本校の学校教育目標は、次のとおりである。

自ら学ぶ意欲と実践力をもち、心豊かでたくましく生きる子どもの育成

本校の重点課題の一つに学力向上がある。学力向上を図るためには、子どもたち一人一人の学習意欲を高めるとともに、主体的に学習に取り組む授業を目指さなければならない。

そこで、平成27年度から、校内研修の主題研究テーマとして「確かな読みをもとに、主体的に表現する力を育てる国語科指導法の研究」を掲げ、国語科の授業改善を中心に指導力の向上に努めてきた。

研究1年次には、文学的な文章を中心に、どのようにして言語活動を充実させ指導事項を身に付けさせるかについて研究授業を行った。その結果、言語活動を通して、指導事項を身に付けさせる授業設計について共通理解を図ることができた。しかし、鹿児島学習定着度調査結果分析から、文学的な文章に関する内容よりも説明的な文章に関する内容の通過率がやや低いことが分かり、対応の必要性を感じた。

研究2年次からは、「読むこと」において説明的な文章を中心に、以下の3つの「学び」をつなぐ取組に力を入れ研究を進めてきた。

① 指導事項や言語活動の系統を明らかにして、6か年を通した「学び」の系統性を重視する。

- | |
|--|
| ② 子どもが主体的に学習できるように、「やってみたい。」「おもしろい。」「分かった。」「できた。」といった意識を喚起させる単元全体においての課題を設定し、単元全体を通した「学び」の継続を重視する。 |
| ③ 子どもたちが広げ・深め・高め合えるような相互に影響し合う関係を大切に交流活動を展開し、子ども同士の「学び」合いを重視する。 |

研究の結果、学習指導要領をもとに指導事項を確認してから、「読むこと」の指導事項を身に付けさせるのにふさわしい言語活動を設定するようになってきた。その上で、この指導事項をこの単元で取り扱う意味が確認され、学習の流れに必然性をもたせることができた。そのことは、子どもたちにとっても、「なぜ」「何のために」この学習をするのか、ということをおぼえさせることにつながり、主体的に学ぼうとする姿が増えてきた。また、教師が言語活動のモデルをつくることで、どこにつまづきがあり、どれくらいの活動時間が必要なのか等が把握でき、授業設計がしやすくなった。その一方で、子どもたちが読み取った順序や構成等を書く活動に生かすことができなかつたり、何を書けばいいのか分からない等、書くことに苦手意識をもつたりしていることが分かった。

そのようなことから、研究3年次からは、「読むこと」と「書くこと」の指導事項を確認し直し、「書くこと」の指導事項につなげるために読ませたり、「読むこと」の指導事項を生かして書かせたりすることで、確かな読みをもとに、主体的に表現する力を育てることにつながると考えた。特に、研究4年次からは、説明的な文章に焦点化して、各学期に「読むこと」と「書くこと」を関連付けた複合的な単元を設定し、「読むこと」と「書くこと」をどのように関連付ければ効果的な指導ができるのか研究を進めている。

(3) 子どもの実態と教師の願い

本校は、授業中も教師の話をよく聞いて、指示されたことを確実に行うことができる素直な子どもが多い。一方で、積極的に自分の意見を述べたり、グループ学習で自分の考えを説明したりするなど、自分の気持ちを適切に表現して相手に伝えることを苦手としている子どもが多い。要因としては、自分の考えに自信がもてなかつたり、伝えたいことはあってもそれをどのように表現してよいか分からなかつたりすることが考えられる。

そこで、国語科の授業を中心として、子ども一人一人が自らの課題に対して、課題解決までの見通しを明確にもち、習得した知識・技能を活用しながら、主体的に解決していけるような授業を展開する必要があると考える。

そのためには、教師が教えるべき指導事項と子どもが学びたいと思うような言語活動とを結び付ける授業を構想していく必要がある。このような学習活動を通して、子どもは、習得した知識や技能を様々な場面で主体的に考え、表現していくことで活用する力が育成されると考える。さらに、表現する一つの手段としての書く活動を充実させることでさらに活用する力が育成されると考える。

また、教師は、国語科の指導で身に付けた力を生かして、「自分の思いを自分の言葉で表現し伝えられる力を付けさせたい。」「インターネットや図書資料を使って調べ学習をした際に、丸写しをせず見付けた情報を要約し、自分の言葉でまとめられるようになってほしい。」「将来、社会人として言葉による的確なコミュニケーションができるようになってほしい。」ということ意識し、日々の授業に臨んでいる。

子どもたちの国語科に対する意識調査から、「分かるようになりたい。」「できるよ

うになりたい。」という思いをもっていることが分かった。また、「自分の思いをうまく伝える言葉や表現方法について学びたい。」「日記や作文を上手に書けるようになりたい。」等の願いを抱いていることから、子どもたちの思いや願いをさらに高めるために、めあてをもって粘り強く課題に取り組ませる関わりを重視したり、読解力や論理的な表現力の育成を図ったりすることが求められている。

そこで、上記の「教えるべきこと」が子どもの「学びたいこと」になるような授業を展開し、教材を使って確かな読みの力を高めることで、子どもたちが「国語の授業が大好き。」「自分の考えや思いを誰かに伝えたい。」と感じ、主体的に表現する子どもが育成できるようになると考えた。

2 研究の方向

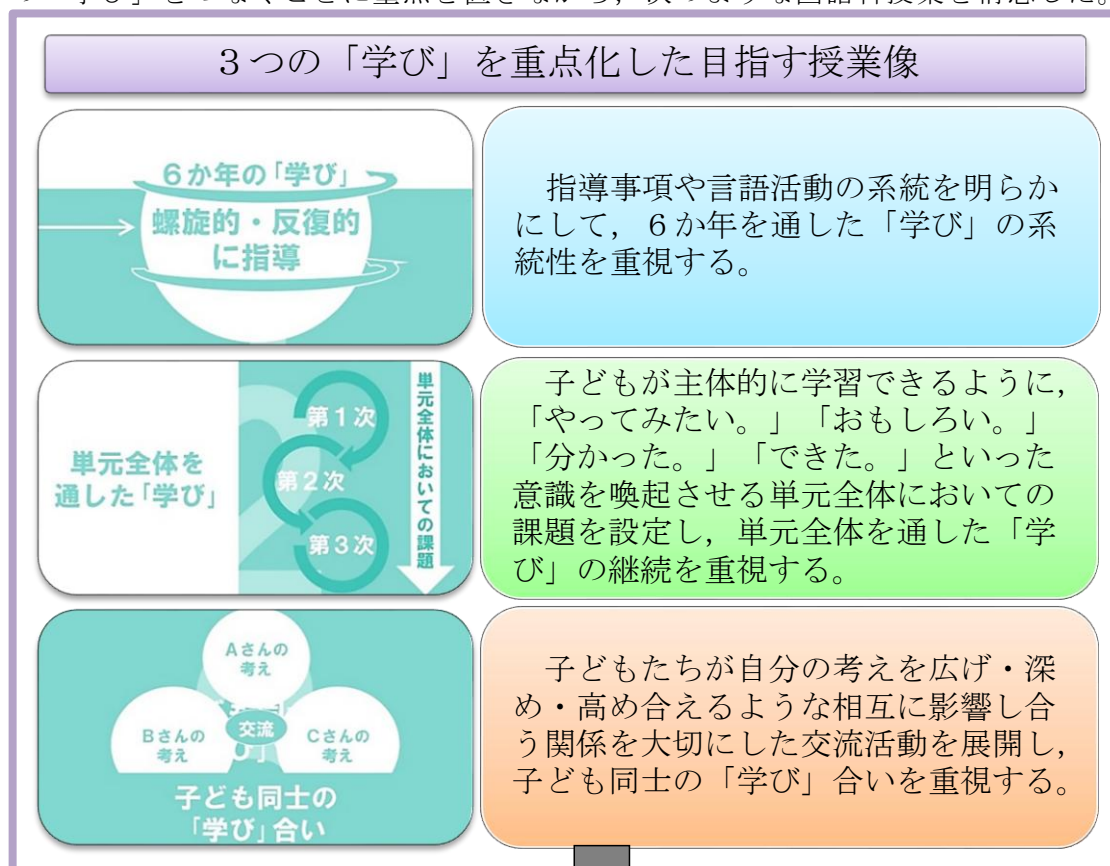
(1) 目指す子ども像

本校の国語科研究における目指す子ども像は、以下のとおりである。

- 読み取ったことと関連付けて、自分の意見や考えを書くことができる子ども
- 相手の考えと自分の考えを比べながら聞くことができる子ども
- 自分の考えを進んで表現し、相手のよさを取り入れながら、考えをまとめることができる子ども
- 多くの語彙を使い、構成を工夫しながら自分の考えを表現することができる子ども
- 言葉のおもしろさや本から学ぶ知恵の奥深さを知り、進んで読書に親しむ子ども

(2) 目指す授業像

目指す子ども像を具現化するために、平成 28 年度に研究して取り組んできた 3 つの「学び」をつなぐことに重点を置きながら、次のような国語科授業を構想した。



※ 1分前には着席をさせ、教科書を音読させたり、前時の振り返りをさせたりする。

つかむ
みとおす

- ・ 単元を通した言語活動を意識して本時の学習に取り組ませるために、言語活動のモデルや学習計画表を提示する。
- ・ 子どもの課題意識を明確にするために、子どもとの対話を通して、子どもの言葉をもとにめあてを設定する。

しらべる

- ・ 見通しをもって主体的に学習させるために、学習の進め方を確認させる。
- ・ 教材文の内容を理解させるために、学習範囲を音読させたり、読み取ったことにサイドラインを引かせたりする。

ふかめる

- ・ 自分の考えを整理したり明確にしたりするために、ノートやワークシートに自分の考えを記入させる。
- ・ 自分の考えを深めさせるために、ペアやグループで自分の考えを交流させる。

※ 「どうして？」→「それは～だから。」等、対話・交流を充実させる。

ふりかえる
いかす

- ・ 交流したことよさを実感させるために、交流を通して気付いた考えの相違点等を振り返らせる。
- ・ 本時の学習と単元を通した言語活動のつながりを意識させるために、子どもとの対話を通して、子どもの言葉をもとにしてまとめをさせる。

※ まとめを自分の言葉で書く時間を確保する。

以上のような「目指す子ども像」「目指す授業像」を受けて、次のような研究主題を設定した。

【研究主題】

確かな読みをもとに、主体的に表現する力を育てる国語科指導法の研究
～「読むこと」と「書くこと」を関連付けた指導を通して～

Ⅱ 研究の内容

1 研究主題

(1) 「確かな読み」とは

目的をもって文章を読み、読み取った叙述(情報)から自分の考えを形成することであると捉える。

(2) 「主体的に表現する」とは

読み取った叙述(情報)をもとに形成した自分の考えを、相手意識をもち、目的や意図、場面や状況などに応じて、意欲的に伝え合うことと捉える。



【図 1：主題のイメージ】

(3) 「読むこと」と「書くこと」を関連付けるよさとは

平成 28 年度までの研究から、文章構成や表現の工夫等、読み取ったことを書く活動に生かせていないという課題があった。

教師にとっては、「読むこと」の指導事項を生かして「書くこと」を指導したり、「書くこと」の指導事項を意識して「読むこと」に取り組むよう指導したりする等、双方の領域の目標における共通性に着目し相互に高めさせることができると考える。

子どもにとっては、「読むこと」で学んだことと「書くこと」で学んだことの双方を意識して、言語活動に取り組むことができると考える。

2 研究の仮説と内容

研究主題を具現化していくために、次の 2 つの仮説を設定した。それぞれに、具体的な取組を位置付けた。

(1) 仮説 1

「読むこと」と「書くこと」を関連付けた課題解決的な指導計画（単元構想）を作成し実践すれば、読み取ったことをもとに自分の考えを形成することができ、主体的に表現する子どもを育てることができるのではないか。
--

【具体的な取組】

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○ 「読むこと」と「書くこと」を関連付けた単元構想の設定○ プランニングシートの作成と活用○ 言語活動のモデル作成と活用 |
|--|

(2) 仮説 2

他者と自己の言葉による見方・考え方を知る交流活動を充実させれば、自分の考えを広げ、深め、高めることができ、主体的に表現する子どもを育てることができるのではないか。

【具体的な取組】

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○ 発達の段階に応じた交流活動の設定○ ワークシート・ノート指導の工夫○ 語彙指導の充実○ 教室内外における言語環境の整備 |
|--|

3 研究の全体構想

【学校教育目標】
自ら学ぶ意欲と実践力をもち、心豊かでたくましく生きる子どもの育成
「明るい子ども」「考える子ども」「がんばる子ども」

【今日的教育の課題】 ・ 「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養など、社会の変化に対応するための能力の育成が必要である。 ・ 基礎的・基本的な知識及び技能を習得して、実社会や実生活の中で、それらを活用していく資質・能力の育成が必要である。	【本校の教育目標及び継続研究】 ・ 重点課題の一つが、学力向上である。 ・ 平成28年度までは、「読むこと」を中心に研究してきた。 ・ 研究を進める中で、「書くこと」に課題があることが分かったので、平成29年度から、「読むこと」と「書くこと」を関連付けた指導を行っている。
【子どもの実態】 ・ 分かるようになりたい。できるようになりたい。 ・ 自分の思いをうまく伝える言葉や表現方法について学びたい。 ・ 日記や作文を上手に書けるようになりたい。	【教師の願い】 ・ 自分の思いを自分のことばで表現し伝えられる力を付けさせたい。 ・ インターネットや図書資料を使って調べ学習をした際に、丸写しをせず見付けた情報を要約し、自分の言葉でまとめられるようになってほしい。

【目指す子ども像】

- 読み取ったことと関連付けて、自分の意見や考えを書くことができる子ども
- 相手の考えと自分の考えを比べながら聞くことができる子ども
- 自分の考えを進んで表現し、相手のよさを取り入れながら、考えをまとめることができる子ども
- 多くの語彙を使い、構成を工夫しながら自分の考えを表現することができる子ども
- 言葉のおもしろさや本から学ぶ知恵の奥深さを知り、進んで読書に親しむ子ども

【H27・28 研究主題】
確かな読みをもとに、主体的に表現する力を育てる国語科指導法の研究
～「学び」をつなぐ言語活動を通して～

【研究仮説1】 指導事項や言語活動の系統性を明らかにし、子どもの実態に応じて位置付けた指導計画を作成し実践すれば、単元を通じた言語活動を充実させることができ、子ども一人一人の読みが確かなものになり、主体的に表現する子どもを育てることができるのではないか。	【研究仮説2】 言葉への興味・関心を高められるような言語環境を整えれば、確かな語彙力や豊かな言語感覚を育成することができ、子ども一人一人の読みが確かなものになり、主体的に表現する子どもを育てることができるのではないか。
視点1 言語活動の充実	視点2 言語環境の整備
○ プランニングシートの作成と活用 ○ 発達の段階に応じた交流活動の設定 ○ 言語活動のモデル作成と活用	○ ノート指導の充実 ○ 教室内外における言語環境の整備 ○ 語彙表の作成と活用

【H29・30 研究主題】
確かな読みをもとに、主体的に表現する力を育てる国語科指導法の研究
～「読むこと」と「書くこと」を関連付けた指導を通して～

【研究仮説1】 「読むこと」と「書くこと」を関連付けた課題解決的な指導計画（単元構想）を作成し実践すれば、読み取ったことをもとに自分の考えを形成することができ、主体的に表現する子どもを育てることができるのではないか。	【研究仮説2】 他者と自己の言葉による見方・考え方を知る交流活動を充実させれば、自分の考えを広げ、深め、高めることができ、主体的に表現する子どもを育てることができるのではないか。
視点1 「読むこと」と「書くこと」の関連	視点2 言葉による見方・考え方を知る交流活動
○ 「読むこと」と「書くこと」を関連付けた単元構想の設定 ○ プランニングシートの作成と活用 ○ 言語活動のモデル作成と活用	○ 発達の段階に応じた交流活動の設定 ○ ワークシート・ノート指導の工夫 ○ 語彙指導の充実 ○ 教室内外における言語環境の整備

Ⅲ 研究の実際

1 仮説 1 に関する主な取組

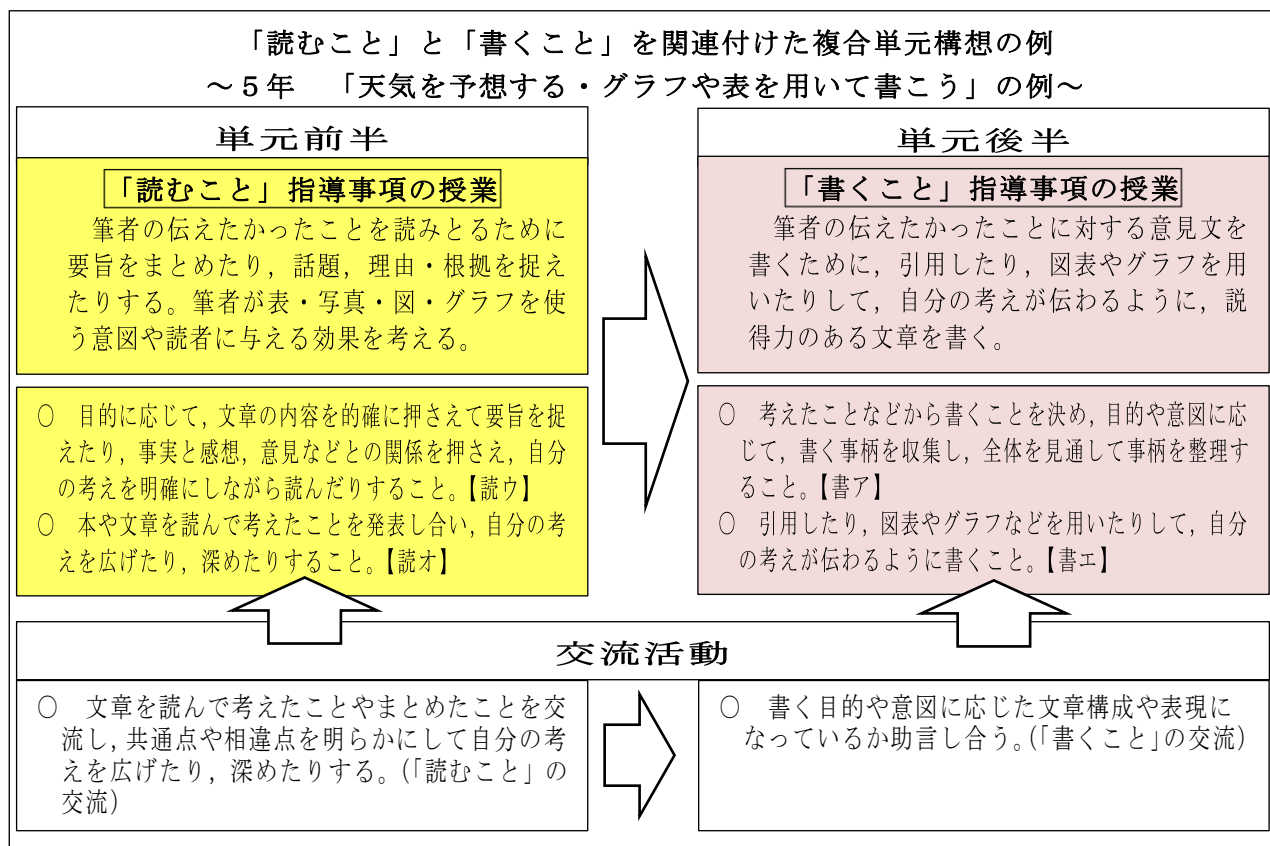
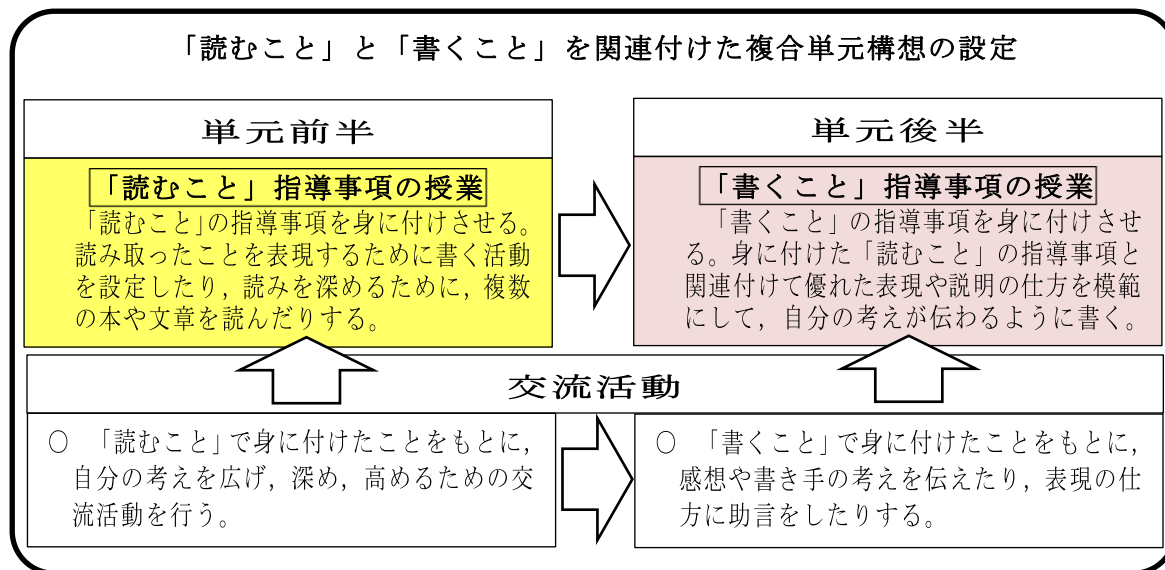
(1) 「読むこと」と「書くこと」を関連付けた単元構想の設定

ア 複合単元

本校では、複合単元を次のように捉え、系統的に指導を行った。

「読むこと」と「書くこと」の指導事項を相互的に身に付けさせるために、単元前半では、「読むこと」の指導事項を身に付けさせ、単元後半では、「読むこと」と関連付けながら「書くこと」の指導事項を身に付けさせる。

1 学期と 3 学期の複合的な単元（次のページで説明）での学習の積み重ねを生かした指導を行う。

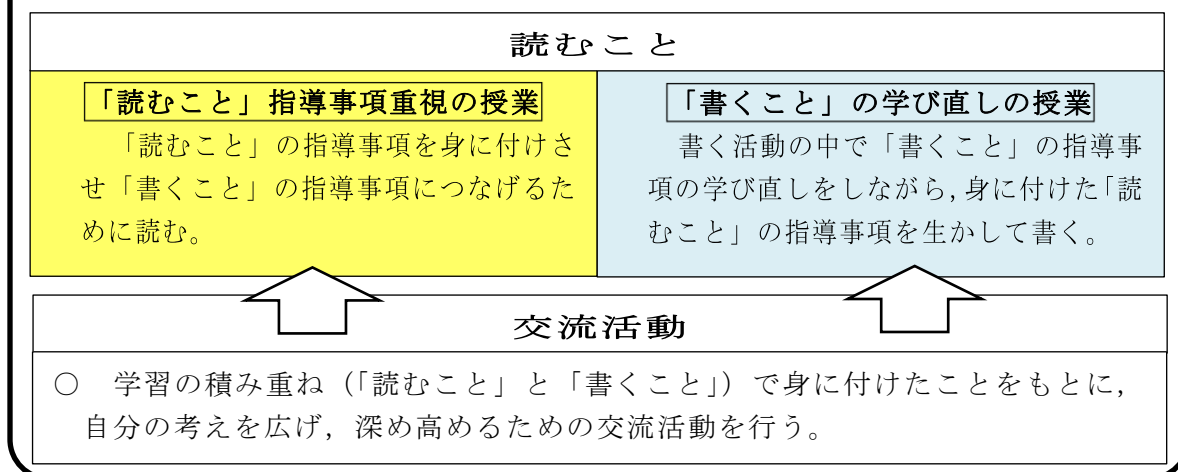


イ 複合的な単元

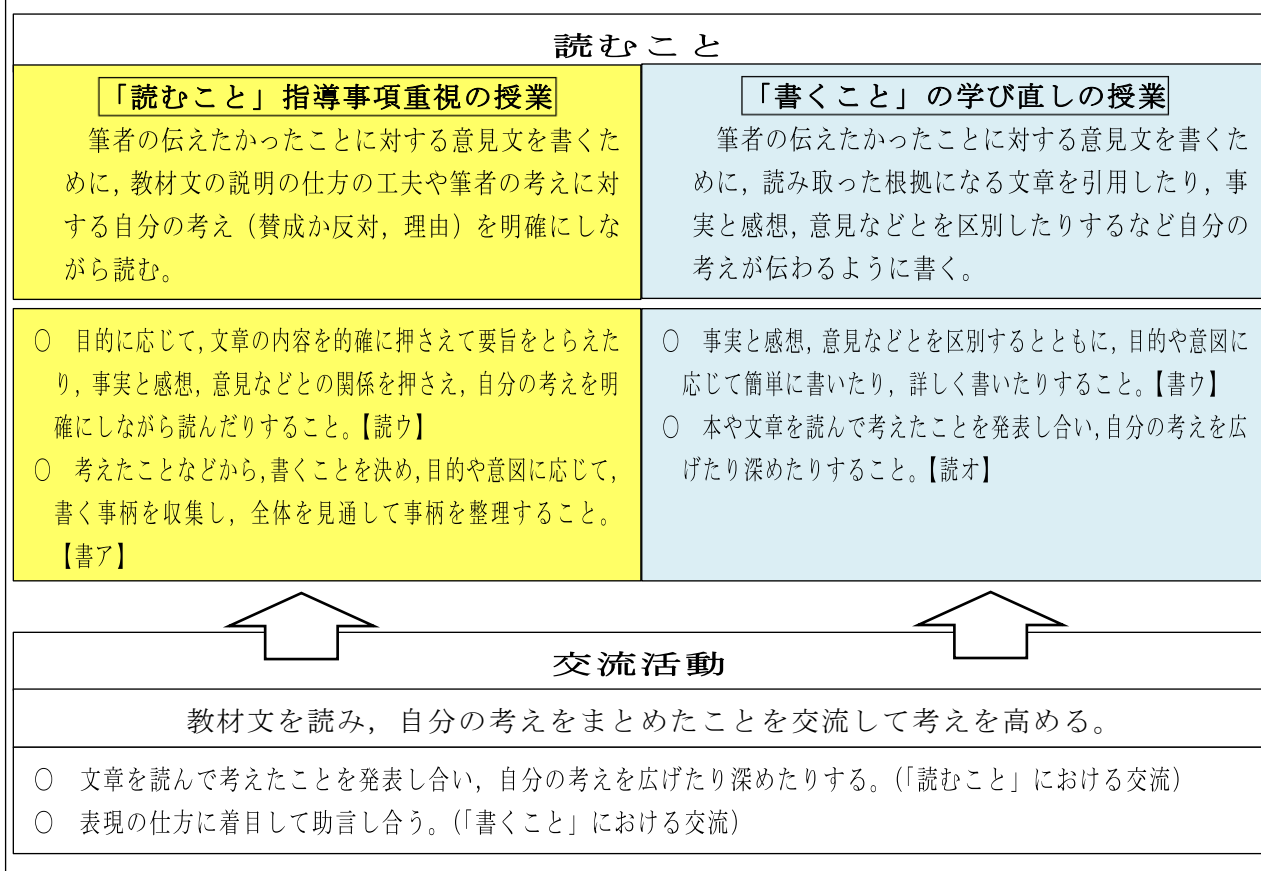
本校では、複合的な単元を次のように捉え、系統的に指導を行った。

「読むこと」と「書くこと」の指導事項を相互的に身に付けさせるために、「読むこと」の学習の書く活動に「書くこと」の学び直しを加えた単元構想の設定を行った。
1学期と3学期の説明的な文章を複合的な単元として指導を行う。

「読むこと」と「書くこと」を関連付けた複合的な単元構想の設定



「読むこと」と「書くこと」を関連付けた複合的な単元構想の例 ～5年 「見立てる・生き物は円柱形」の例～



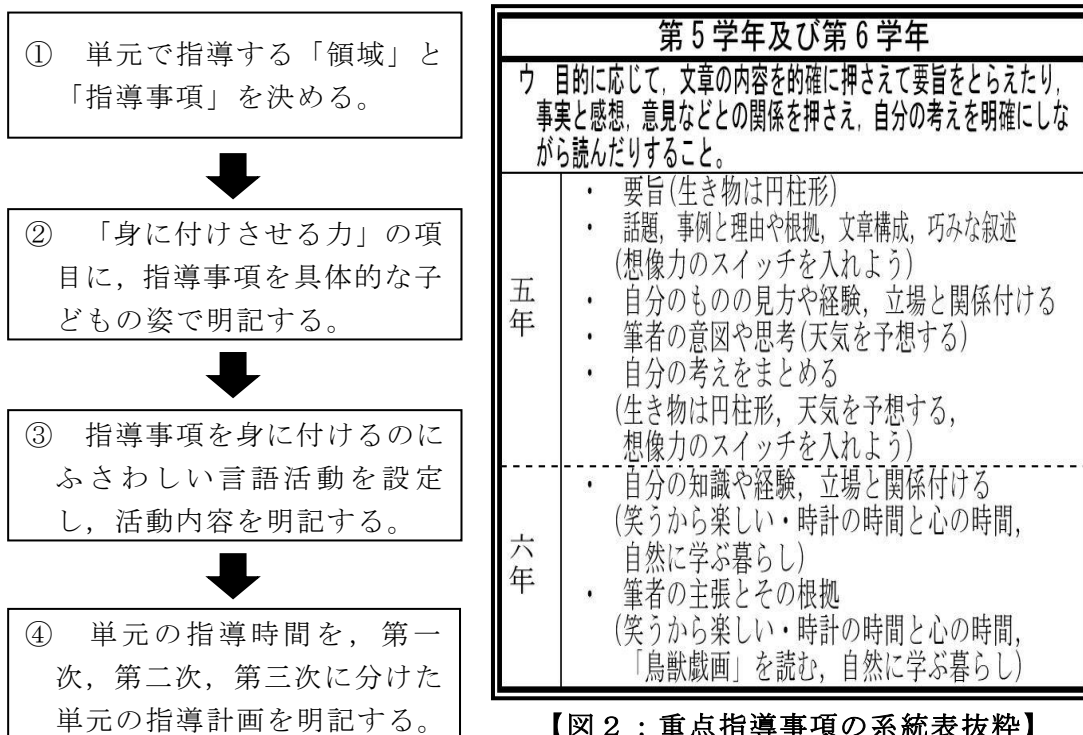
(2) プランニングシートの作成と活用

ア 基本的な考え方

国語科では、言語活動を通して子どもたちに指導事項を身に付けさせることが大切である。本校では、平成 27 年度より、教師が、指導事項をしっかりと意識して指導できるようにするために、単元毎の指導事項と言語活動を明確にし、指導計画にしっかりと位置付けた「プランニングシート」を作成して授業に臨むようにした。子どもたちが、これまでに身に付けてきた力と、新たに身に付けさせたり高めたりする力を確認することによって、指導事項の系統性を意識した指導を目指している。

イ プランニングシート作成の手順

プランニングシートを作成するにあたっては、本校が独自に作成した重点指導事項の系統表（図 2）を活用し、以下の流れで作成を行った。



【図 2：重点指導事項の系統表抜粋】

ウ プランニングシートの活用と見直し

作成したプランニングシートは、学年毎にファイルに綴じている。教師は、それらを参考にして授業計画を立てたり、指導を行ったりしている。プランニングシートは、より子どもの実態に応じたものにするために、学期毎に学年で見直しをしている。また、見直しの際は、プランニングシートをまだ作成していない領域や単元を確認し、新規に作成している。

平成 27・28 年度…文学的な文章教材のプランニングシートを作成
平成 29 年度…説明的な文章教材のプランニングシートを作成
平成 30 年度…各学期に 1 つずつ複合単元、複合的な単元のプランニングシートを作成

(※ プランニングシート及び重点指導事項の系統表については、別冊資料に掲載)

第 〇 学年 【単元名】言語活動が具体的にイメージできるような単元名にします。

【教材名】教材名を書きます。

学年・教材名 14pt（太字）

項目名 12pt（ゴシック），その他は基本 10pt

1 領域、指導事項

領 域	指 導 事 項
C 読むこと	（本単元での「読むこと」） （書くための読みでの「読むこと」既習）
B 書くこと	（本単元での「書くこと」） （読むことの書く活動での「書くこと」既習）

ここには、本単元の学習で指導する学習指導要領の指導事項を書きます。

※ 「複合単元の系統表」（H30）を参照。

2 身に付けさせる力

これまでの学習で子どもが身に付けてきた力（・）

ここには、学習指導要領の指導事項を参考にして…

① 本単元の指導事項と関わりのあるもので ※（読イ）、（書ア）を記入する。

② 当該学年を含む2学年分を

（例① 6年ならば、5年と6年で身に付けた力 例② 3年ならば、2年と3年で身に付けた力）

この単元で新たに身に付けさせる力（◎）／さらに高める力（○）

ここも学習指導要領の指導事項を参考にして…

① この単元で新たに身に付けさせる力 ② 前回も学んでいるが、さらに定着させたい力
…を記入します。

3 設定した言語活動

「読むこと」と「書くこと」を
関連付けた言語活動

言語活動名を書きます。

【活動内容】

ここには、言語活動の内容を具体的に書きます。
例：〇〇な活動をする。

【言語活動を意識させる手立て】

ここには、言語活動を子どもに意識させるための
具体的な手立てを書きます。
⇒例：1単位時間のまとめ後に、毎回必ず感想を
書かせる。

これまで経験してきた関連する言語活動

ここには、本単元の言語活動と関連の深い、既習の
言語活動を書きます。
例：第3学年及び第4学年ア物語や詩を読み、感想を
述べ合うこと ○感想文（3年）

4 単元の学習計画

【学習時数】8時間

次	時	学習活動
1	1	
	2	
2	3	
	4	
	5	
	6	
3	7	
	8	

【指導上の

単元を「第1次」「第2次」「第3次」と分けます。指導書を参考に記入します。

特に、以下の2点に留意しながら作成します。

① 言語活動を、子どもにどう意識させるか。

② 言語活動に取り組ませることで、身に付けさせたい力が身に付くか。

「第1次」では、単元の目標設定や学習の見通しや目的意識をもたせる。

「第2次」では、教材文で考え方や言語活動の進め方を学ぶ。

「第3次」では、並行読書していた図書を使って、自力で言語活動に取り組む、友達と感想や意見の交流を行う。

そして、単元の学習で学んだ知識や技能を子どもに具体的に振り返らせる場を設定します。

【図3：国語科学習指導プランニングシート作成の手引き】

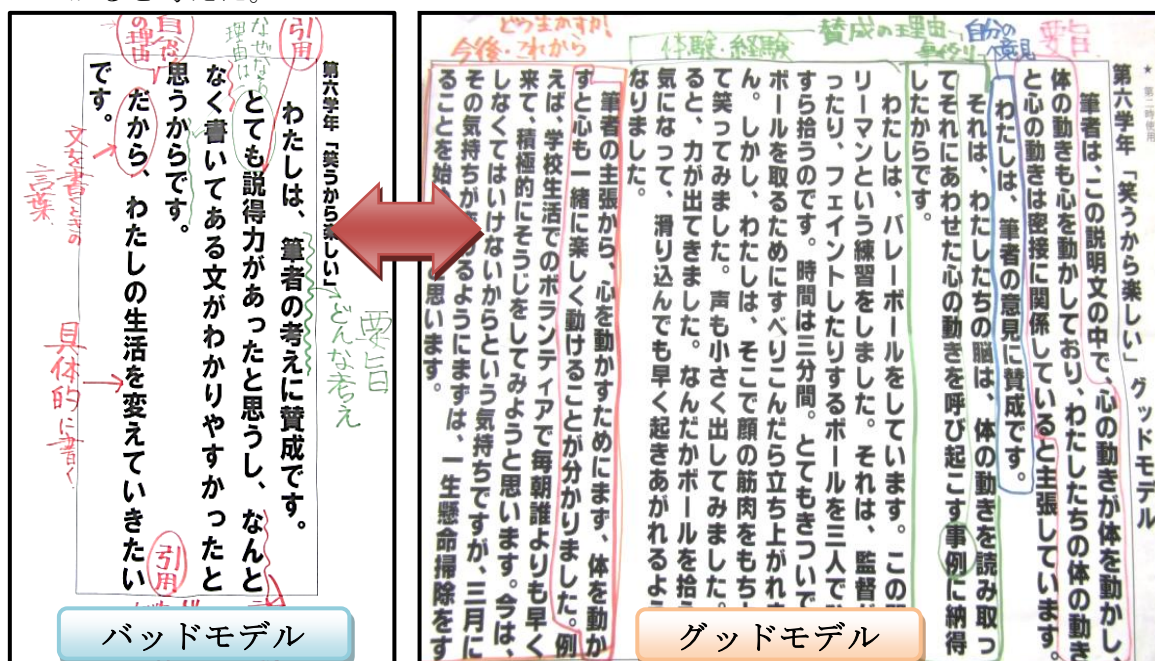
ア 基本的な考え方

そこで、本校では、言語活動のモデルを活用することで、子どもたちが自ら表現の効果や説得力のある文章を書く必要性やそのポイントに気付き、生かそうとすることができると考えた。そのモデルを提示する際は、指導事項や発達の段階に応じたバッドモデル、グッドモデルを活用して、授業実践を行っている。

イ バッドモデルを活用し「表現の曖昧さ」に気付かせる工夫

ウ グッドモデルを活用し「書くための視点」に気付かせる工夫

バッドモデルの活用から、子どもたちは、指導事項の「引用を入れるとよい。」「自分の考えを明確にして書くべき。」「筆者の意見や要旨をまとめ、自分の考えと比べるとよい。」等と気付くことができた。そこで、グッドモデルを活用して、説明の仕方の工夫を見つけることにつなげ、グッドモデルを通して、「書くための視点（指導事項）」に気付かせ、意見文を書くときの課題を明確にすることにつながると考えた。



【図 4：バッドモデルとグッドモデル】

【バッドモデルの効果】

- ① 書き手の考えについて自分の考えをもつことができる。
- ② 表現の曖昧さから具体的に説得力のある内容を書く必要性を考えることができる。
- ③ 文を書く事が苦手な子も曖昧な文章を実感し、何をどのように書くのか理解して自信をもつことができる。

【グッドモデルの効果】

- ① 書き手の考えの中心、根拠、事例など、どのように書くとういかに考えることができる。
- ② 書く視点をはっきりさせて教材文を読むことで、教材文の読み取りに生かすことができる。
- ③ 書く視点や文章構成を明確できるので、交流や内容の再構成に生かすことができる。

2 仮説2に関する主な取組

(1) 発達の段階に応じた交流活動の設定

ア 「交流活動」についての基本的な考え方

単元を通して言語活動を充実させるためには、子どもの主体的・協働的な学習を促すことにつながる交流活動を充実させる必要があると考える。

そのためには、まず、互いに尊重できる人間関係が重要である。そして、子どもが複数の関係の中で、音声または文字によって自分の考えを発信・受信し合うようにする。その際には、目的意識や相手意識も含めた個々の課題意識がはっきりしていなければならない。(主体性)さらに、伝え合いの中でやりとりされる内容や他者との関わりなどについて自己評価する場面を設ける。(協働性)

また、学習計画を検討する際には、以下の視点で交流活動を位置付けられるようにし、自己評価の視点を明確にしている。自己評価させる際に、低学年では、教師が自己評価の視点を示し、教師主導で振り返らせる。中学年では、教師が自己評価の視点を示し、子ども主体で振り返らせる。高学年では、本時の「交流活動」の目的に応じて、子どもが主体となって振り返りができるよう留意している。

視点1「相手を尊重している交流」

- | | |
|--|---|
| ☐ 相手の話を最後まで聞いているか。 | ☐ 相手の話を受け止めてから聞いているか。 |
| ☐ 相手のよさを見つけようとしているか。 | ☐ 言葉遣いに気をつけているか。 |

視点2「目標を明確にもっている交流」

- | | |
|---|--|
| ☐ 自分の考えを広げようとしているか。 | ☐ 情報を集めようとしているか。 |
| ☐ 自分の考えと比べようとしているか。 | ☐ 新たな情報を得ようとしているか。 |

視点3「自分自身の考え方に生かそうとしている交流」

- | | |
|---------------------------------------|---|
| ☐ 自分の考え方に変容があったか。 | ☐ 相手に、自分の変容を伝えようとしているか。 |
|---------------------------------------|---|

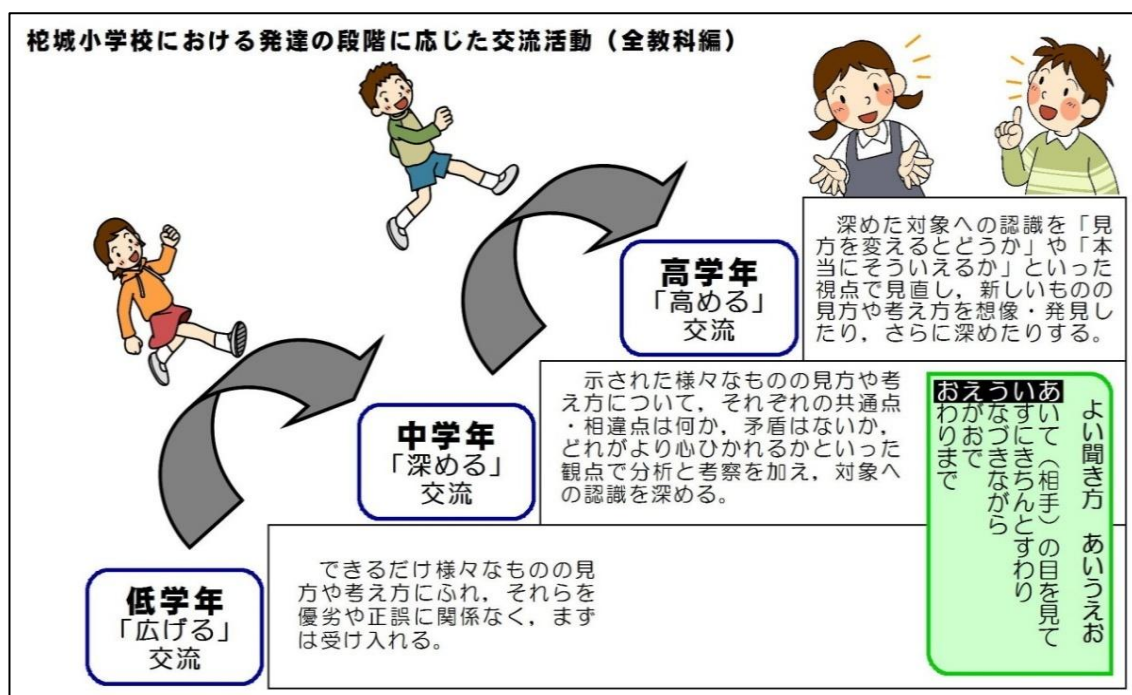
視点4「自分たちで、新しい考えを作ろうとする交流」

- | |
|--|
| ☐ 協力しながら、新しい方法や新しい考え方を創ることができたか。 |
|--|

イ 発達の段階に応じた「交流活動」

本校では、6か年を見据えた「交流活動」を行う際、系統的な指導により、より効果を高めることができるように、全教科等において、発達の段階を踏まえ、子どもの思考を低学年では「広げる」、中学年では「深める」、高学年では「高める」ことを意識して、「交流活動」を設定できるように留意している。(図5)

特に、低学年では、「交流活動」の土台となる傾聴の姿勢を育てるために、「よい聞き方『あいうえお』」を徹底して、多様な意見を引き出せるようにしている。



【図5：発達段階における「交流活動」(全教科編)】

本校では、学習指導要領解説国語編の交流に関する指導事項を子どもに身に付けさせるために、低学年では、特にペアでの活動を重視し、高学年に上がるにつれて、グループでの交流（４人１組が基本）を増やしている。また、子ども一人一人が自分の考えを明確にもってから交流することを大切にし、友達の考えと自分の考えを比較したり、根拠を明確にして自分の考えを相手に伝えたりして、自分の考えを再構成できるような活動を行わせている。その際、自分なりの考えを整理する手だてとして、図６に示すような主な思考語彙を提示している。

柁城小学校における発達の段階に応じた交流活動（国語編）					
学習形態		交流に関する指導事項	子どもの学び	主な思考語彙	
高 学 年	グループ	【読むこと】 交流を通して、それぞれの考えとの共通点や相違点を明らかにし、自分の考えを広げたり、深めたりする。	【個の学び】再構成 ○ 自分の考えを見直す。 新しい考えを取り入れる。 自分の考えを確かにする。	⑤ まとめるとき ○ このことから ○ つまり ○ すなわち ○ 要するに	
		【書くこと】 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。			
中 学 年	ペア	【読むこと】 文章を読んで考えたことについて、一人一人の感じ方に違いがあることを大切にしながら交流し、相手と自分の感じ方の根拠を比べる。	【交流活動】 ○ 自分の考えを伝える 根拠を明確にする。 考えを整理して話す。	④ 分かりやすく言うとき ○ たえば ○ 言いかえると	
		【書くこと】 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。	○ 友達の考えを聞く。 多様な考えを知る。 自分の考えと比較する。	③ 詳しく説明するとき ○ 比べると ○ ちがいは ○ 共通点は	
低 学 年	ペア	【読むこと】 読んだ内容について、自分の知識や経験、読書体験と結びつけながら、感想を発表し合う。		② 理由を言うとき ○ だから ○ なぜなら	
		【書くこと】 書いたことを読み合い、良いところを見つけて感想を伝え合う。	【個の学び】 ○ 自分の考えをもつ。 叙述に則して読む。	① 順序よく言うとき ○ まず ○ 次に ○ そして ○ それから ○ 最後に	

【図6：発達段階における「交流活動」（国語編）】

(2) ワークシート・ノート指導の工夫

交流活動をより充実したものにするために、ワークシートやノートの効果的な活用について整理した。自分の考えをしっかりと書いたワークシートやノートは、子どもたちの話合いが充実する一つの方法（ツール）と捉える。

ア ノート指導について

「読むこと」と「書くこと」を関連付けた指導を行う際、ノートやワークシートに書き、表現させることは、重要な言語活動の一つであると考え。また、相手と自分の考えを伝え合う交流活動をする際、これらを活用することは効果的であると考え。

ノートの役割や機能として、「練習」「記録」「思考」の三つが考えられる。そこで、以下のように整理した。

練習	学習を通して、平仮名・片仮名・漢字を覚え、言葉や文を読んだり書いたりするだけでなく、習得させる。
記録	授業の大事なポイントを「記録」しておくことで忘れにくくしたり、授業後に想起させたりする。
思考	自分の考えをノートに書くことで、整理したり再構築したりする。

学びの場として、ノートはとても大切であり、ノート指導の充実を図ることで、表現する力を高めることができると考える。また、ノートワークシートと比較したとき、ノートの方が自由に活用することができるので、自分で考え、まとめるという力が必要となる。子どもたちが、主体的に表現する力を身に付けるようにするために、ノート指導のポイントを明確にする必要があると考えた。以下にノート指導のポイントとその実際を示す。

【指導のポイント】 ※ ☆印は、授業で必ず書かせる項目

- ☆① 学習した日付を書く。
- ☆② 学習のめあてを書く。(両端に赤線)
- ☆③ 自分の考えや友だちの考えを書く。
- ☆④ 学習のまとめを書く。(赤のもくもく枠)
- ⑤ 学習の感想を書く。

【板書の仕方】

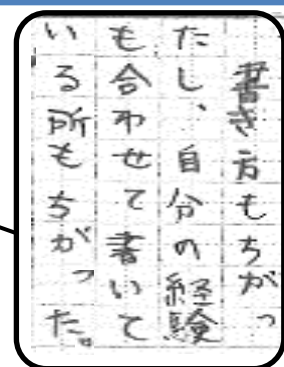
学習課題：青
めあて：黄
まとめ：赤

ノートを2段に分け、下の方には、漢字の確認テストや国語の言葉の意味調べ、友達と話し合った意見、振り返り時での感想(学んだこと・分かったこと)等を書くようにする。低学年では、国語ノートを使用するため上下に分けずに使用する。

- 友達と話し合った意見を書く。

(交流の足跡を残す。)

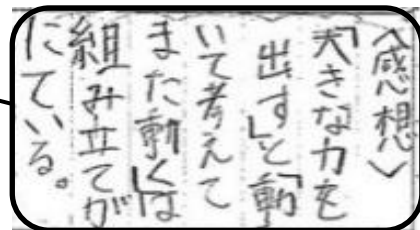
- 交流することで、分かったこと・気付いたことを明確にし、交流したことで自分の考えを広げたり、深めたり、高めたりするよさを実感させる。
- 教師側も、交流の変容を見て称賛し、意欲付けすることに生かせる。



- 学習の感想を書く。

(自分で学んだことを自覚化させる。)

- 本時で学んだことや単元を通して身に付けた力を振り返ることで、主体的に次の学習へとつなぐことができる。



【図7：ノート例（高学年）】

イ ワークシート作成・活用について

ワークシートは、ノートに比べると自由度が低くなるが、指導者が習得させたい力を明確にすることができる。また、図や表、吹き出しなどをあらかじめ書き加えておくことで、子どもたちの学びを促進する効果や時間を効率的に使える効果があると考えられる。活用後は、振り返りや単元を通した「学び」につなげるために、ノートに貼るようにする。子どもたちが、主体的に表現する力を身に付けていけるようにするために、ワークシートの活用のポイントを明確にする必要があると考えた。以下にワークシートの作成・活用のポイントとその実際を示す。

【作成・活用のポイント】

- ① 学習のめあてを書く。(両端に赤線)
- ② 自分の考えや友だちの考えを書く。(記述欄、付箋紙、交流)
- ③ 学習のまとめを書く。(赤のもくもく枠)
- ④ ワークシートの形式と言語活動の学習成果物の形式をそろえる。
- ⑤ 毎時間、書きためていける形式にする。(積み重ね、つながり)

記述欄については、学年の発達の段階、活動の目的、活動にあてる時間などを十分に考慮し、マス(文字数)や行(行数)を学年ごとに検討し決定する。また、問いとそれに対する答えを書く欄のみの練習プリントにならないように留意する。

ワークシートに自分の考えが
しっかり書けたぞ。

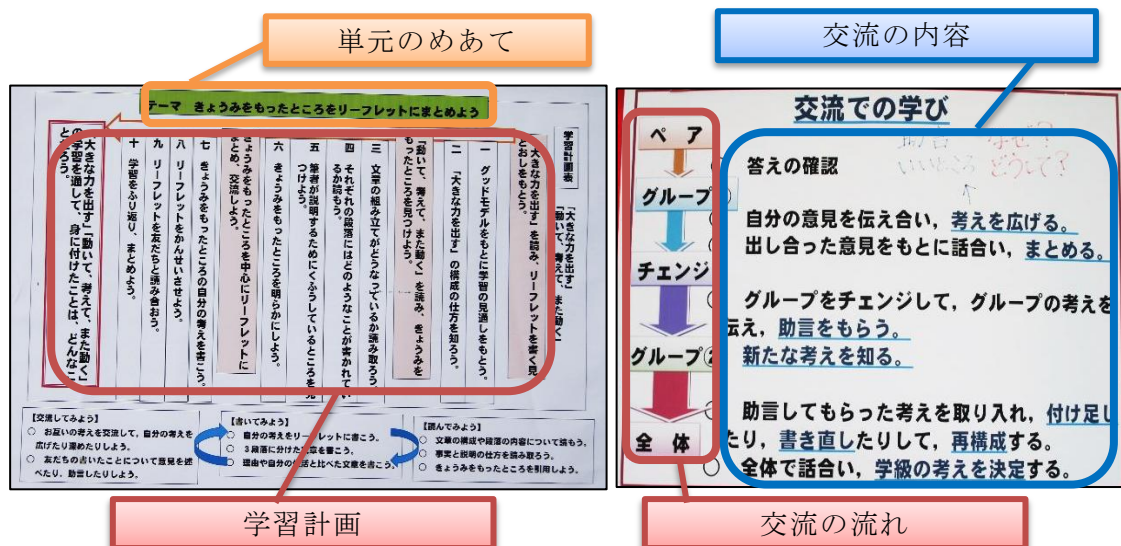
自分の書いた考えは友だちに
伝わりやすいかな。

引用したところが自分と同じ
だけど、それに対する考え方が
違うな。そういう考え方もある
んだ。

ここの考え方は気付かなかっ
たな。わたしの考えと違ってお
もしろいし、言葉によって伝わ
り方も違うんだな。



【図8：ワークシートを使った交流の様子（中・高学年）】

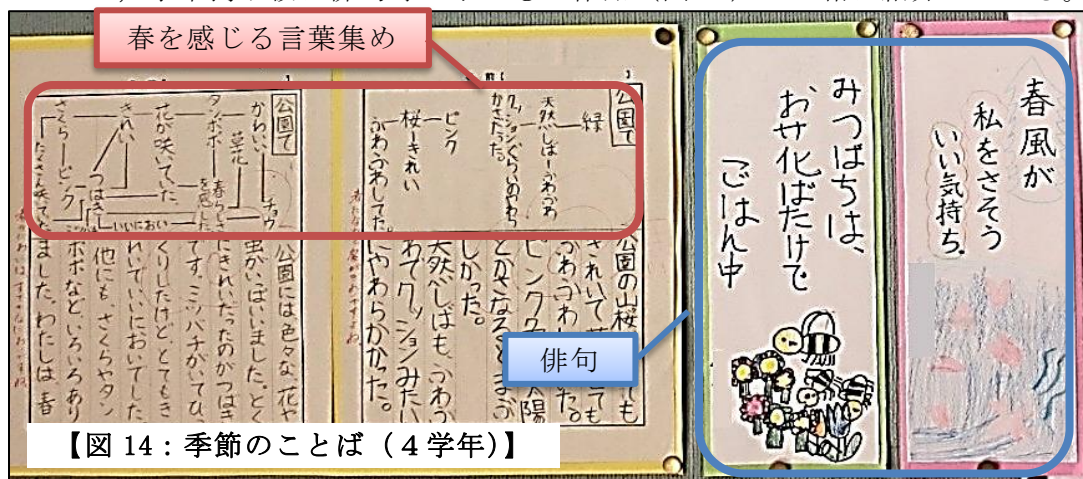


【図 12：学習計画表【5 学年】】

【図 13：交流の手立て】

イ 季節のことば揭示

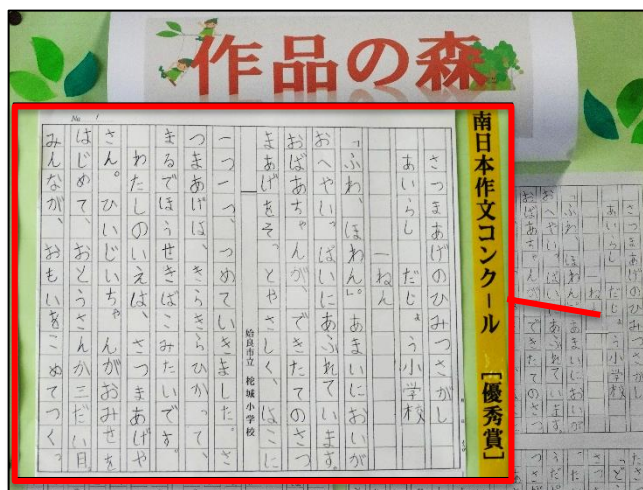
四季の素晴らしさや自分の周りにある季節を感じさせ、それを表現する語彙力を高めるために、各学年の国語の教科書に掲載されている季節の言葉のページを拡大コピーし、学年掲示板に俳句等の子どもの作品（図 14）と一緒に紹介している。



【図 14：季節のことば（4 学年）】

ウ 作品の森

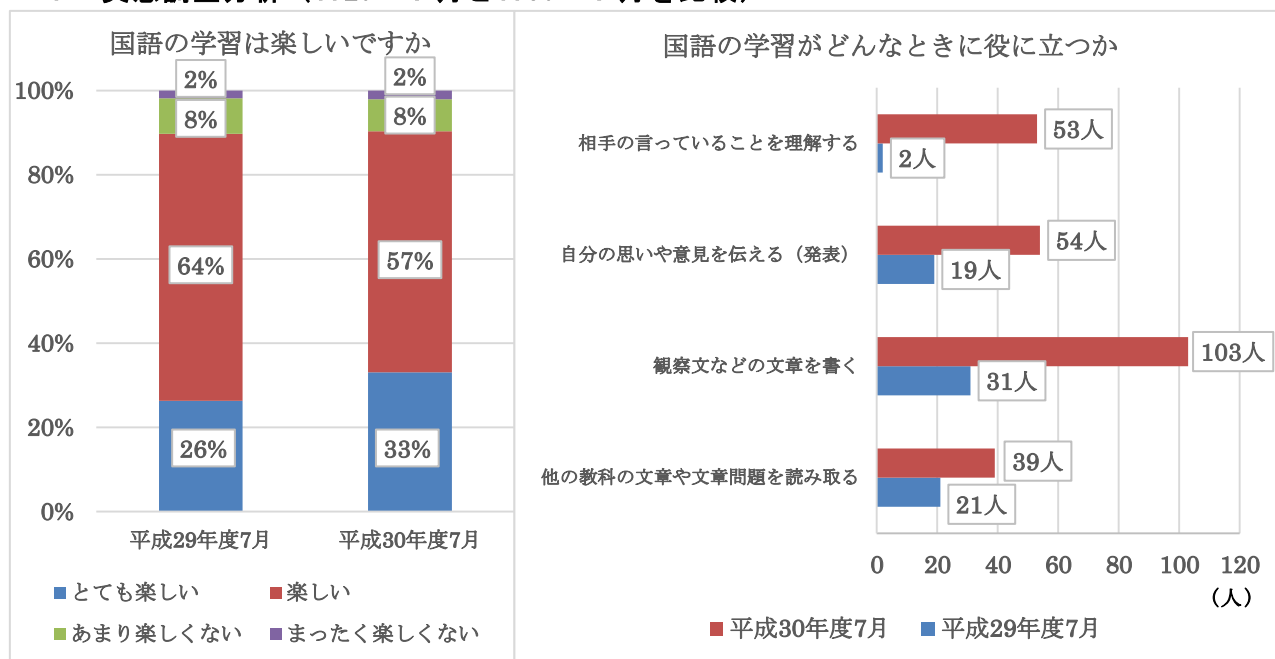
各種作文審査で選ばれた作品を玄関の掲示板に掲示した。豊かで生き生きとした言葉で書かれた作品を紹介することにより、自分の考えや意見を相手によく分かるように伝えることの魅力に気付かせたり、作文を書くことへの関心・意欲を高めたりできるように身近な友達の作品を掲示するようにした。



【図 15：作品の森】

Ⅳ 子どもの変容

1 実態調査分析（H29 - 7月とH30 - 7月を比較）



【考察】

国語の学習を楽しく感じている子どもの割合は、平成29年度・平成30年度ともに90%と変わりはないが、内訳を詳しく見てみると、とても楽しいと感じている子どもの割合が、7%増加している。書く活動を意識して取り入れてきたことから、文章を書くことへの苦手意識が薄れていったのではないかと考えられる。

また、国語科の有用性については、相手の言っていることを理解する（「聞くこと」）、自分の思いや意見を伝える（「話すこと」）、文章を書く（「書くこと」）、文章題や文章を読み取る（「読むこと」）ともに、大きく増加している。「読むこと」を中心とした研究を進めてきたが、「書くこと」との関連性を追究してきたことにより、普段の授業の中で他の内容についても関連を意識して授業をするようになったことが要因と考えられる。

2 諸学力検査の結果（国語科の学力について）

国語科における各種調査において、本校では、以下のような結果となった。

(1) 鹿児島学習定着度調査

	年度	28年度	29年度
書くこと	本校	62.7	53.8
	県比	+8.4	+19
読むこと	本校	80.5	66.9
	県比	+9.1	+5.8

○ 「書くこと」「読むこと」とともに、県平均より高い結果が見られた。特に「書くこと」において大幅な向上が見られた。

(2) 全国学力学習状況調査

		A問題（基礎・基本）			B問題（活用）		
	年度	28年度	29年度	30年度	28年度	29年度	30年度
書くこと	本校	80	62.5	72.6	60.4	59	55.9
	全国比	+7.2	+1.9	-1.2	+7	+5.6	+10.3
読むこと	本校	81.3	70	73.3	72.4	56.3	58.2
	全国比	+2.8	-0.2	-0.7	+3.1	+7.1	+7.4

選択式	本校	63.8	68.8	69.6
	全国比	+3.9	+4.2	+2.0
記述式	本校	65	50.8	44.7
	全国比	+10.3	+9.1	+11.5

- B問題では、「書くこと」「読むこと」両方において、全国と比べて大幅な向上が見られた。
- B問題の出題の内訳では、「記述式」の問題の定着が見られる。

V 研究の成果と課題

1 研究の成果

【仮説1】

- 「読むこと」と「書くこと」を関連付けることにより、各領域の目標を系統的に分析し、共通性を高めることができた。そのための単元構想を練ったり、複合的な単元を設定したりして系統的に指導することで、子どもたちが学習の見通しをもち、これまでにどのようなことを学び、新たにどのような力を身に付けていくのか意識して学習することができた。
- 「読むこと」と「書くこと」を関連付けたプランニングシートを作成することで、関連付ける指導事項が明確になり、効果的に身に付けさせるための言語活動を具体的に設定することができた。
- 言語活動のモデルをもとに、単元を通した学びを子どもたちも理解して、「何を」読み取って表現すればよいのか見通しをもって主体的に学習を進めるようになり、書く活動への学習意欲が高まった。

【仮説2】

- 発達の段階に応じた交流活動を設定し、「何を」「どのように」交流させるのか、明確な視点をもって交流させることで、子どもたちが自分の読みを深めたり、主体的に表現したりすることができるようになってきた。
- ワークシートやノート指導を充実させることによって、読みとったことを書く活動に生かす等、自分の考えを書いたり、再構築したりできるようになってきた。
- 教室内外における言語環境を整備したり語彙指導の充実を図ったりすることで、子どもたちのことばへの興味・関心や表現力を高めたり、語彙力や言語感覚を育成したりすることができた。

2 今後の課題

- 「読むこと」と「書くこと」を関連付けた複合的な単元を設定する際は、目標の共通性を明確にし、授業時数や授業内容を適切に設定するようにカリキュラムマネジメントを行い、授業改善をしていく必要がある。
- 「読むこと」に「書くこと」を関連付けるだけでなく、国語科教育全般で、他領域との関連も図りながら、系統的・螺旋的に指導を行っていく必要がある。